

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	商学研究科
大項目	5 学生の受け入れ (研究科)
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 内部からの進学者のみでなく、広く学外入学者、内部・外部からの留学生、他研究科からの入学者を受け入れる。	→学内外を対象として春学期・秋学期に各2回ずつ開催している入試説明会の告知方法の多様化、参加人数の増加。	A	A	B		
2. 定員充足率を高める。	→充足率。	B	B	B		
3. 専門職業人の養成を教育目標のひとつとして教員が意識を共有する。	→教育コンテンツや卒業生のキャリア等についての情報共有の促進とそのための機会提供。	B	B	B		
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	学内外を対象として春学期・秋学期に各2回ずつ大学院入学説明会を開催した。商学研究科の掲示板やWebサイトで大学院入学説明会の開催を告知し、研究科委員会において教員にも学生への周知を依頼している。商学研究科の予算は極めて少なく、告知方法のこれ以上の多様化は困難である。2011年における大学院入学説明会への参加者数は若干減少傾向にあるため、2011年度の進捗度評価をBとした。
目標2	2012年度入学者数は前期課程で定員の50% (15/30)、後期課程で80% (4/5) となり、前期課程入学者数が減少した。前期課程入学者数のコース別内訳では、専門学識コースは定員の85% (15/20)、研究職コースは0% (0/10) であった。前期課程専門学識コースと後期課程は、教育効果を考慮すれば適正な入学者数を得たことになる。 在籍生全体でも収容定員とはかけ離れてはいないので、大学院組織全体でも活気がある。2011年に比べ前期課程の在籍者数が低下したが、後期課程の在籍者が増加しており、定員充足率評価としての進捗度評価はBと据え置いた。
目標3	専門職業人の養成が教育目標の一つであることは、教員は当然ながら意識を共有している。教育コンテンツや卒業生のキャリア等について各分野ごとに情報交換を行っている。教育コンテンツや卒業生のキャリア等の情報共有の促進はファカルティディベロップメントとして機会を提供していくべき課題である。2011年度において目立った変更はないため、進捗度評価をBに据え置いた。
備考	

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【商学研究科】		前期/後期課程	単位	2008	2009	2010	2011	2012	備考
指標1	入学定員	前期課程	名	30	30	30	30	30	・5/1現在
		後期課程		10	5	5	5	5	
指標2	志願者総数	前期課程	人	31	36	36	34	28	・5/1現在
		後期課程		1	4	3	5	4	
指標3	合格者数	前期課程	名	26	34	22	25	17	・5/1現在
		後期課程		1	4	2	4	4	
指標4	入学者数	前期課程	名	21	26	18	22	15	・5/1現在
		後期課程		1	4	2	4	4	
指標5	志願者倍率	前期課程	倍	1.0	1.2	1.2	1.1	0.9	・5/1現在 ・志願者÷入学定員
		後期課程		0.1	0.8	0.6	1.0	0.8	
指標6	入学定員に対する入学者数比率(5年間平均)	前期課程	倍	0.66	0.66	0.68	0.66	0.63	・5/1現在 ・入学者数÷入学定員
		後期課程		0.19	0.28	0.34	0.48	0.42	
指標7	入学者に占める一般入試入学者の比率	前期課程	%	28.6%	30.8%	22.2%	13.6%	20.0%	・5/1現在 ・一般入試入学者数÷入学者数
		後期課程		100.0%	100.0%	50.0%	75.0%	75.0%	
指標8	収容定員	前期課程	名	60	60	60	60	60	・5/1現在
		後期課程		30	25	20	15	15	
指標9	在籍学生数	前期課程	名	35	49	46	44	41	・5/1現在
		後期課程		5	8	7	8	11	
指標10	収容定員に対する在籍学生数比率	前期課程	%	58.3%	81.7%	76.7%	73.3%	68.3%	・5/1現在
		後期課程		16.7%	32.0%	35.0%	53.3%	73.3%	

注) 指標2, 3について入学定員の変更あり

2006年度まで前期課程50名、2007年度より前期課程30名